

10/23 朝日

戦争しない国 選挙で造ろう

無職

(京都府 77)

9月18日の声欄で、15歳の女子中学生が「戦争せずにすむ方法 教えて」と問いかけていました。

「平和」とは2文字だけで美しいのです。「幸福」も2文字であり、わせを表します。安倍晋三首相の言う「積極的平和主義」は、哲学的にみせかけて、指導者が何かを粛々と始める様子を予感させます。

敗戦の年、私は7歳で、滋賀県彦根市で母と2人暮らしでした。ある日空襲警報が鳴り、自宅から200mほど離れた防空壕へと走りました。でも結核だった母は走れません。後方からグラマン機が

迫り、「死んだ」と思った瞬間、機銃掃射の銃弾は私たちの横5mを一直線に走りました。母は後から「女と子どもだから助けてくれたのだ」と言っていました。

当時も戦後も毎日ひもじい思いばかり。母は結核で早世、私も結核になりましたが77歳まで生きました。それは苦しかった戦争の後に日本が平和になったからです。

戦争をしないためには、貧困や差別のない社会を目指し、戦争の原因をつくらない政治家を選挙で選ぶしかありません。みんなの命を大切に思い、どこの国とも仲良くして、その先にある平和を守っていきますように。